

【報告事項】

○地域学校協働活動推進委員研修会「これからの地域スポーツを考える研修会」について

・藤野係長(以下、「係長」)

部活動の地域移行ということがテーマの一つであり、若干地学協働の意味合いが薄れるかもしれないが、この富良野地域における子どもたちのスポーツ環境をどう地域として支えていくかということを学校、そして地域のスポーツ関係者と合わせて研修会を行った。

・遠藤副委員長(以下、「副委員長」)

学校の部活動を含めた活動をどうするのか、講義とグループワークと行った。

部活動の地域移行については定例会の一般質問でも出ていた。教育委員会では検討会を立ち上げると出ていた。今までの概念とちょっと変えながらやっていく必要がある。

【議題】(1) 令和5年度富良野市社会教育事業の点検と評価について

<子ども子育て支援>

・副委員長

ヘソキッズランド、HPやガイドブックに記載がない。転入者や転勤族、もしかしたら知らない人もいるのではないか。載せた方が良いのでは

・佐藤教育部長(以下、「部長」)

開設当初と長期休暇のみしか情報提供していないのが現状。しっかりPRしていかなければならない。担当課(こども未来課)と調整していく。

・田畑委員

ネットトラブルの項目があるのが素晴らしいが、色々な情報が入ってくる中で驚いている。評価にも書いたが、今年1年間富良野小の校長をやって、改めてネットトラブルが多いことを実感した。

各家庭では、子ども用のアカウントを作って、使用させている。「つながる」というのは不特定多数、だからこそトラブルも多い。小学生が勝手にLINEのグループを作って、入るとか入らないとかのトラブルあり。担任が解決したが氷山の一角。学校の問題というよりかは奥が深い問題。高齢者が政治をやっているうちは変わらないのではないか。大人が現状を知って、危機意識を共有することが必要。何かやらなければならないと感じる。

・副委員長

行政からの情報は市民に伝わるのが大事ではあるが、積極的なPRが必要。高齢者の詐欺、ネットを使ったトラブル、たくさんあるので対策が必要。

・天日委員長(以下、「委員長」)

どこが防波堤になるのかわからない。依存がある限りは難しい事案である。社会全体で考えていかなければ。市民がどう対処していくのか、思いつかないが一人ひとりの意識の問題。

・永盛委員

効果とか達成度が全体で低い。行政としては、評価が低いことを知ることが大事。ここは考える必要がある。学校では・・・家庭でのルール作りが必要だが、行政が声をかけて進めていくしかない。課題として市民が共に悩みながら勉強していくことが必要。課題認識が必要。

・委員長

教育委員会では配布しているが打つ手はないくらいやっている。親がどこまで制約できるかが難しい。

・桑原委員

政治の責任は重要。こども家庭庁は機能しないのが私の評価。担当大臣が答弁できない状態なのが組織としてどうなのか。

社会総がかりで子どもを育てるとした時にアイディアは尽きている。人生を通して社会教育を考えた時に、広すぎて大変。行政は場の提供に努めて市民が活用し自然発生的に進めているものに対して予算をつけていく。行政主導では新しいものは始まらない。

フラノデザイン、FURANO BETA 大学の取り組み。富良野を好きな人が集まって活動している(ふらの学の大人版)柔軟に考えないと広がりはないのでは？

・田畑委員

キーワードは主体性。自分に関係があるぞという意識。自分に責任があるという意識。誰かに教わるはなく、自分で学べる場、機会。そのためにアウトメディアプロジェクトも進めているが・・・。

・中村委員

小6の息子もタブレットでグループを作って入っている。重大な話はしていないが、使っていない子は入れない。親の転勤で転校した子は LINE を使っているので友達として引き続き繋がれるメリットもあるが、行った先では別のコミュニティがあるので、前の学校の友達だけに依存して新しいコミュニティを作る妨げになるのではということもある。タブレットで何をしているか見ないとわからないので怖い部分もある。

<青少年教育の推進>

・委員長

子ども会について、組織を広げてやるということが記載されているが、大賛成。町内会の子ども会は抜本的に改革しないと続かない。

・副委員長

単位子ども会の時代ではない。少年団活動・部活動も含めて

・委員長

実態把握はしていると思うが、、結果は聞いてないけどいかがか？

・係長

子ども会については、昨年9月・10月頃に全単位町内会宛に実態調査を行った。

結果について詳細のデータは（会議の時は）持ち合わせていないが、ほとんどの町内会において「(全市子ども会に) 加入しているかわからない」「子ども会が町内会にあるかわからない」「どんな活動をしているかわからない」「地域に子どもがどのくらいいるかわからない」という回答でした。

子ども会組織として、少子化やコロナ禍の影響もあり、子ども会（地域の子ども）に対する意識の低下が顕著で抜本的に組織を見直し、もしくは組織という形にこだわらず地域における子ども達の体験活動を支援していく方策が必要と考える。

・副委員長

町内に子どもがどのくらいいるか把握できない。個人情報観点から学校も教えてくれない。

・原委員

北の峰はやっているが、子どもがこんなに少ないわけではないと思うが、、というくらいの子どもの参加しかないときもある。子どもも地域の活動に感知せず（親も・・・）

<成人教育>

・中村委員

防災について学習したいという声を他からも聞くことがあり、中央婦人会だけでなく他でも防災教育を進めていくことが必要。

・副委員長

十勝岳の噴火、空知川の氾濫、雪害など、考えられるが、市長部局でもやっているか？

・部長

R6年度の早い時期に防災訓練をやることが予定されている。

・委員長

何年前に麻町でやったことあるが、最近はやっていない。学校ではやっていると聞くが、地域も含めた防災教育を考えているが。北の峰には活断層、ベベルイ川も東小校区にある。

生涯学習アドバイザーについて、本来の意義とは、会議の中に出てきてアドバイスなどしてもらえるような。本来の役割は？

・係長

生涯学習アドバイザーとして雇用しているわけだが、現状の業務内容は高齢者大学の専任講師と青少年補導センター補導員及び青少年健全育成についての業務となっており、生涯学習全般を広く担当する内容とはなっていない。

・副委員長

ホームページについて社会教育事業について触れられていない。どんどん活用をしていかないとデジタル社会には対応できないのでは？

・係長

非常に耳が痛い部分の指摘で、実際にできていないのが現実。現在見直しを図るべく検討をしているところなので、今後修正をかけていく予定。

・副委員長

ことぶき大学について、名寄の事例について記載あるが、この辺も検討すべきではないのか。年齢要件はR6年度から上がると聞いたが。

・係長

R6年度より65歳以上の方を対象とした。現在は65歳以下になる方もいるのと、経過措置として60歳以上の方で希望する方がいれば入学を受け入れる方向で考えている。

・永盛委員

HPの活用について、地域おこし協力隊の活用は？人数の制限は？

・部長

地域おこし協力隊は仕事ありきでの募集で、現状は教育振興課としてICT支援員が2名入っている。期限は3年間でその後の富良野定住を見越して雇用している。R6年度からの教育支援センターでも専門職員ということで募集している。

市長部局ではシティプロモーションでは入ったりしているが・・・HP更新などの業務で雇用するのは難しいと考えている。人数の制限はないが、業務内容の精査含め、その年の予算によって雇用できる人数が決まる。

<図書館>

・副委員長

図書館2階3階の利用方法に無知な人が多い。実態は？

・石坂図書館長（以下、「館長」）

今年度から貸館がスタートしたので、無知な人もいるとは思うが。周知的には4月に行った程度で、その後はあまり行っていない。知ってる人は知ってるけど知らない人は知らない状況の為、今後周知を進めていきたい。

・中田委員

サークルや会議の人は上に上がるが、きっかけが無いとつかう人がいない。案内をしてほしい。

・桑原委員

開館時間は？6時までだったら使い勝手的にはよくないのでは？

・館長

19歳未満のアンケートではもっと使いたいという意見は確かにあるが、警備などの延長対応となるのかどうか、検討は必要。

・桑原委員

答申の時には6時以降は外部委託、文化会館の人は図書館の夜にという話だったと思うが、人をつければ有効活用できる可能性はあるが予算の問題。

・館長

学生は要望あるが、それ以外はあきらめているのか、要望は特に寄せられていない。

・副委員長

公民館施設ですのでより有効活用できるように検討が必要。

・部長

ふれあいセンターや女性センターなどの他の施設もあるので、その辺利用状況を考慮しながら実態を見ながら今後判断していく。

<生涯学習センター・社会教育施設>

委員より特に意見無し

<教育推進計画について>

・副委員長

機関車の保全について、屋根などの設置は検討できないのか？

・澤田生涯学習センター所長（以下、「所長」）

なかなか難しい。屋根だけでは不十分で、完全に覆われるものでないと保全は難しい

・中田委員

社会教育施設の部分で、中央公民館というのは？図書館？

・館長

書き換えが必要。「図書館・中央公民館」

・永盛委員

JRの廃線。その遺産の保全などはどう考えるのか？

・所長

窓口は企画振興課。間に入ってもらって、駅表とかは色々博物館に収蔵する予定。富良野鉄道未来の会、布部駅は今後活用の予定。歴史的建造物もある、山部・布部も物語がある場所なので、残ってほしいとは思いますが、ハードルが高く難しいところもある。現地で維持をしたまま保全はお金かかる。現地性も大事であるので保全したいが、ハードルが高い。何らかの形で保全できる方向でいろんなパターンを考えている。

以上